

北九州シオン教会 2024年1月7日(日) 主日礼拝
李 泳善(イ・ヨンソ) 師 マタイの福音書 7:13~14 「The Gate of the year」

13”狭い門から入りなさい。滅びに至る門は大きく、その道は広いからです。そして、そこから入って行く者が多いのです。

14 いのちに至る門は小さく、その道は狭く、それを見いだす者はまれです。

新年を迎えるたびに頭の中に浮かぶ人物がいます。

彼は昨年亡くなったイギリスの女王の父ジョージ6世です。

「キングスピーチ」という映画から出た吃音の王が

まさにこのジョージ6世です。



戦争の不安の中で、ジョージ6世はラジオを通じて全国民に、

この危機を克服するために、国民の団結を訴えます。

彼は言葉をたどる致命的な弱点があったが、

彼の演説を通して、国民は勇気と力を得ます。

反面、その当時海を渡ったドイツのヒトラーという人物がいました。

彼は特別な才能を持つ人ではありませんでしたが、

ナチス党での彼の演説は光を放ちます。

彼はスピーチの天才であり、彼のナチス党は非常に少ない数の政党だったが、

その後ドイツを支配するようになります。

この歴史的事実を考えて今日聖書の言葉を思い出してみましよう。

イエス様は狭い門と狭い道を選ぶように山上水訓で言われます。

そして前世紀にあったこの戦争の勝敗は狭い道に行くのか

広い道に行くかによって決まったのではないかと思います。

イギリスは当時世界で最大の植民地を持っている国であり、
15年前に起きた第一次世界大戦の戦勝国でした。

一方、ドイツはイギリスやフランスのような植民地もなく、第一次世界大戦の敗戦国として戦争補償金を払うために莫大な負担金を負った国でした。

このように見ると、イギリスは広い道を歩く国であり、
ドイツが狭い道を歩く国だったと見ることができます。

しかし、第二次世界大戦を引き起こしたヒトラーのナチスの行為は
今日、聖書に見られるように、決して狭い道ではなかったと信じています。
むしろ彼らは人間の罪の道を歩いたと思います。
そしてその結果は惨めな苦痛と不幸を引き起こします。

今日聖書の言葉を見ると、イエス様は狭い門と狭い道に行くと言われます。
2024年を迎えながら、私は皆さんと私たちが歩く道は広い道ではなく、
むしろ私たちは狭い道を歩くべきだと言いたいのです。

それでは、狭い道とは、果たしてどんな道でしょうか？
今日、マタイ7章にその内容が示されていると私は思います。
今日の本文13-14節の前後に記録された聖書の言葉は、
私たちに狭い道が何であるかを教えてくれると信じています。
そしてその狭い道は必ず私たちに勝利につなげてくれる道だと信じています。
今日の言葉を通して私たちに知恵と勇気と祝福を与えてくれると信じています。
まず、批判することは広い道、お祈りは狭い道であることです。

この内容はマタイ福音書7章1-2節、7節からみましょう。

1”さばいてはいけません。さばかれなためです。

2 あなたがたがさばくとおりに、あなたがたもさばかれ、あなたがたが量るとおりに、あなたがたも量られるからです。”

まず1-2節は人をさばいてはいけません・・と言っています。

結局他人をさばくことは自分をさばく結果になるということです。

しかし、自分に帰って来るのは裁きだけではありません。

7節では求めなさい、捜しなさい、たたきなさいと言っています。

”求めなさい。そうすれば与えられます。捜しなさい。そうすれば見つかります。たたきなさい。そうすれば開かれます。”

神様に切に求める人に、神様は報いて下さいます。

結局、批判も私の希望も同じ形で私に戻ってくるということです。

石を投げると石が再び飛んでくるだろうし、

私が花を投げると、花は私に戻って来ます。

1933 ナチスがドイツの政権をとってから、ヒトラーが演説する場面があります。

ヒトラーはドイツのインフレ、失業、財政崩壊などを以前政府、

ユダヤ人、周りの国のせいだ起こったことだと演説します。

そして国民は国家のためにすべてを捧げないといけない、

戦わないといけない、

多くの敵に向かって怒鳴らなければならないと演説します。

彼の演説を通してドイツ国民の怒りが爆発します。

これが第二次大戦を起こすようになります。

一方、ジョージ 6 世は 1939 年のクリスマスを迎えました。

9 月からは戦争が始まり、国民は不安と恐怖に震えています。

彼は吃音でしたがイギリスの王として国民に向けてラジオ演説をします。

そのスピーチの後半に、Minnie Louise Huskins という詩人の

The Gate of the Year という詩を引用します。

その内容はとても感動的で信仰的なものです。

And I said to the man who stood at the gate of the year:

‘Give me a light that I may tread safely into the unknown.’

And he replied:

‘Go out into the darkness and put your hand into the Hand of God.

That shall be to you better than light and safer than a known way.’

So I went forth, and finding the Hand of God, trod gladly into the night.

And He led me towards the hills and the breaking of day in the lone East.

そして私は年の門に立っている男にこう言いました。

「未知の世界に安全に足を踏み入れることができるように、光を与えてください。」

そして彼はこう答えた。

「暗闇に出て行き、あなたの手を神の手に入れなさい。

それはあなたにとって、灯よりも良く、知っている道よりも安全です。

それで私は外へ出て、神様の手を見つけて喜んで暗闇の中を歩きました。

そして彼は私を丘へと導き、孤独な東の夜明けに導きました。

ジョージ 6 世はイギリスの王でしたが、神様の前では謙虚でした。

彼自身もこの国の未来がどうなるのか分からなかったのです。

それで、彼は目に見えるよりも目に見えない神の手を握り、

神様とともに歩いていく道を選んだのです。

歴史は名演説家ヒトラーではなく吃音のジョージ 6 世の手を挙げてくれました。

なぜなら、ヒトラーは他人を審判することに熱心でしたが、

一方、ジョージ 6 世は神様に求める祈りをしたからです。

2024 年私たちが狭い道に行くことは審判と判断することを諦めて、

祈る人にならなくて行くことを意味します。

審判、非難、評価する人は多いが、それは滅びの道です。

むしろ言葉なしに祈る人は少ないですが、それが命の道です。

どうすれば、私たちは裁きをする人から祈る人になれますか？

裁きをする人は、自分を過大評価し、神様の全能さを多く体験できなかった人です。

しかし、祈る人は自分の柔らかさを認め、神様の全能を体験した人です。

皆さん、私たちは行ったことのない 2024 年を今から歩かなければなりません。

誰もその道に何があるのか教えてくれません。

私たちはみんな弱い存在です。

ですから、私たちは一步一步神様の手を握っていかなければなりません。

その手を握るということは祈ることです。

神は祈る人と同行されます。

批判して審判するのは簡単なことです。

しかし、祈るのは難しいことです。

今年一年祈りながら、進んでくださる皆さんになることをお祈りします。

2番目はマタイ7章 15-20 節です。

2番目の狭い門、狭い道は真実と偽りを見分ける力です。

15 にせ預言者たちに気をつけなさい。彼らは羊のなりをしてやって来るが、うちは貪欲な狼です。

偽預言者、偽教師は、教会が誕生した時から今まで存在します。

そして多くの人はこの偽りに騙されます。

そのため、偽が広い道になります。

エレミヤ時代を考えてみてください。

エレミヤはエジプトを信じるのではなく、神のみを信じなければならぬと預言しました。

そして、神様はイスラエルの不従順に対する鞭としてバビロンを選んだと言われます。

イスラエルは長い間エジプトという国に頼ってきました。

結局バビロンに降伏できませんでした。

エレミヤはバビロンに降伏することが神の御心だと言いました。

しかし、偽の預言者たちはバビロンに勝つことができると言いました。

偽りは時々私の中にある場合もあります。

私の知っているある障害者運動リーダーがいます。

彼女は脳性麻痺障害を持って生まれました。

彼女は中学校まで自分の知能にも障害があると思って勉強をしませんでした。

しかし、中学校の先生の一言が彼女を変えました。

「あなたは障害がありますが、あなたの知能は障害がありません。

勉強することができます...」。

その言葉を聞いて彼女は勉強し始めました。

彼女はますます知恵のある人になりました。

後日彼女は世界的なリーダーになりました。

彼女は本も書きました。彼女の一代記がドラマで出てきました。

意外と偽りにだまされるのは広い道です。

これらの偽りにだまされないために、聖書は良い方法を教えています。

それは 20 節に示されている言葉です。

20 こういうわけで、あなたがたは、実によって彼らを見分けることができるのです。

それで私たちの狭い道は常に真実を判断しなければならないということです。

その方法は実を見ることです。

英国の最悪の首相と呼ばれるチャンバレーンは、

1938 年ヒトラーに会ったにもかかわらず、

ヒトラーの欲望を知らず、自分がドイツから平和をもたらしたと言いました。

しかし第二次大戦を勝利に導いた英国受賞チャーチルはヒトラーに会ったことがなかつ

たが、ヒトラーは世界を戦争に導く狂気であることを一目で分かりました。

彼はヒトラーについての記事を少し見ただけです。

しかし、彼が結んだ実を見て、彼を調べたのです。

真実は実を見て分かるのです。

その人がこれまで結んだ実を見てください。

ですから、私たちは真理ではない場所でさまようことはありません。

3番目はマタイ7章 21 節です。

21 わたしに向かって、『主よ、主よ』と言う者がみな天の御国に入るのではなく、天におられるわたしの父のみこころを行う者が入るのです。

この聖書では、2つのクラスの人を話しています。

一人は「主よ、主よ」と言う人です。

そして他の人は「天におられた神様のみこころを行う人」を言います。

言い換えれば、一人は言葉だけの人です。

この人は広い道を行く人です。

そして他の人は神の御心を実践する人であり、

この人こそ狭い道を行く人です。

ここで私たちは狭い道です

神様のみこころに従うことであり、それによって実を結ぶのです..と言えます。

ここで私たちはこの考えを一度やってみたいです。

それでは、私たちはどのように実を結ぶことができますか？

実を結ぶためには種がなければならず、土があり、太陽と水がなければなりません。

種はみことばで、土は私たちの心だと思います。

それからその種と土に水を与えなければなりません。

ところで水を一気に与えてはいけません。

水は毎日少しずつ与えなければなりません。

だから我々は実を結ぶためにはハムを薄く切って食べるように、

私たちの目標を薄く切る必要があります。

私たちは一日一日、小さな目標を立てて実践する必要があります。

みことばを黙想して適用するのが難しいことをしないでください。

できること、可能なこと、そして他人を満足させるのではなく、

自分自身を満たす適用をなささい。

私が神と交わり、小さな適用も私と神の間の秘密として残るとしても、

それこそ大切なのです。